



続・**反理沙**が

木林で**触手**に

FOR ADULT ONLY

：どれだけの
時間が経ったのか

引きずり込まれた穴は
とつくに閉まっていた

中は薄く光る触手で
ほのかに照らされていた

やはりキノコか
コケなんかの一種なのか

そんなことを考えて
気を逸らそうとするけど

すぐに疼く身体に
意識が移ってしまう



地上での行いが嘘のように

触手は私に
何もして来なかった

それが辛い

はら
？…ん



わっ…

私の精神をいたぶるような行動

わけわかんないっ

この生物は知能が高い上に

こんなカッコ
させてっ

なに、もっ



くっ…

手足に巻きついた触手が
蠢くだけで大きな快感が走る

この…っ



だけど決して
大きな刺激ではなく

思えば地上での
私への行為

もどかしい感覚が
蓄積するだけだった

私を捕える
ためのあの罠



なかなか嗜虐的な
性格をしていたわけだ

グッリッ

あやっ

グッリッ



キツ...

あゝ

あゝ

あゝ



うゝ... ああ

すゝ...

すゝ...

やゝ... 動...



ああ...

這ってき...

ぬる...

あゝ



じらされ昂つた体は
身体を蠢く触手の刺激だけで
イキそうになる

手足に巻き付いていた触手が
粘液を塗りつけながら身体を這う

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

やめ

あゝ

あゝ

あゝ



はっ!!

大切な部分を

おお

ズルズル

はっ



はっ!!

か、あつ?

はっ!!

おっ

おろろ

そんな私の身体に無遠慮に



おっ

啜え込まれ

ズルズル



摘まれ

おっ



おっ!!

容赦なく快感が
刻まれてゆき

拘束され抵抗できない身体に

ズルズル



流し込まれる

おろろ!



得体のしれない液体を

ガッ

ゴッ



私に堪える術などなく

敏感になっている身体は



地上で飲まされた液体より遥かに臭く粘り気あるソレが口、食道を満たし

その間も触手は敏感な部分を責め立てる



あッ...

キョッ

おろろ...



あぁあ
あぁあ
あぁあ

すぐに果てた

毒を盛られ、弄られ

数分も経たずのぼりつめる体



しかし触手に容赦はなく

こ、今度は

絶頂の最中の
私の体を蹂躪していく

なに、を...





触手が私のお尻を拡げだし

前だけでは飽きたらないのか

何拡げ

の...

ググ

ヤ...



そっちは...

ツツ

うじ?!



おし...

カ...

グイッ

お!

いあ



そんなの入っ...

ギキ

ギキ

それっ

冗談だろっ?!

じよっ



そこに芋虫のような
歪な別の触手が近づいてくる

ひっ...

なっ...



入るわ...けぎっ...

いっ...

グ

ニキ



裂けかねないような太さの
触手だというのに私の身体は
不思議と受け入れていく

圧迫感による嘔吐感と排泄感
慣れないお尻からの快楽

体内に侵入されている恐怖感で
歯の根が合わない

疣と贅が腸内を
乱暴に駆け巡りながら

多量な体液を腸内に
まき散らしていく





下半身の刺激に
気を取られているところへ

ギョ



お腹っが…

なかでっ

何か出てっ…

ボツ

ガッ

シメ



不意打ちのように
乳首の先に針を突き立てられた



あああ
あああ

ハッ

ハッ



突き刺さった針から何かを注入される

痛みで胸が焼けるように熱い



痛っ



この時やつと私は

どうしてこんな目に遭うのか

なぜこんな所に来てしまったのか

自分の体がこの生物のなにかしらの目的のために改造されていると悟った

不快感と痛みと快感を叩きつけられながら

私にはそんなことを考えることしか出来なかった



半刻かそこらだろうか



陵辱していた触手が離れていく



刺激からの開放に安堵したのも

お、おわり…？

束の間





失禁するほどの耐え難い快感に腰が跳ねる

腹の底から熱が湧き上がり



そこに形容しがたい姿の
バケモノが足元から這い上がり



背中から私の身体に巻き付き胴体を拘束していく





私の秘裂に無理矢理ソレをあてがい



一気に

男の人の性器のような
触手がせり出して来て



お尻を陵辱していた触手よりも
一回りも大きなイボだらけの



貫かれた

あああ

ズ
ズ
ズ

あああああ
あああああ
あああああ

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ

は

は

は

は

は

は



普通なら裂けるとしか
思えない太さの触手が

乱暴に秘裂をかき回していく





さつき針を刺され
注入された
液体のせいかな

触手に搾られた
胸から
母乳が噴き出し

水かきの
大きな触手が



私の胸を締め上げ

っ...強く...

母乳を絞りあげよう
としてくる

しぼっちゃ...

ううう...





どういう構造の生物か
または植物
妖怪なのかはわからないが

そのうち柱のように
変貌した生物に
完全に絡めとられ

本体らしき生物と
触手が融合し合い

身じろぎも出来ない身体を
内から外から弄ばれ

何度目かもわからない絶頂が
脳を焦がしていく

さらに太く力強く





そこに容赦なく
大量の液体が注がれる



冗談ではない勢いで注がれていく



尋常でない量の白濁した液体が



体中の穴に



あつけなく触手たちに
押さえつけられてしまう



半狂乱になり

なけなしの力で
暴れてみても



急速に膨れていく自分のお腹を
絶望と共に見るこゝししか出来なかった



がんにがらめにされ更に注がれる白濁液

声にならない声で許しや
助けを乞うても意味はなく



明滅する意識の中で

無慈悲に弄り壊されていく
自分の身体を見つめながら

数刻前までの日常へ戻って欲しいと

これが夢であって欲しいと

ひたすら乞い願い続けた

ギク

おううう...

ギク...

ぐわんぐわん
あぁあぁ!!

うわあうわあ!!

ギク

がはっ

ふぐ...

ドク...

ぐ...

ぐ...

がううう...

ボク...

ぐ...

ボク...

が...

ドク...



だが願っても現実が
変わることはなくて

ああ？

は



球のように膨らんだ自分のお腹



在るのは陵辱され変貌した肉体



依然消えることのない
全身の火照り



そして胎内で蠢く
妖しげな感覚のみだった

グレ...

ブホ

曇りゆく意識の中で

更にどうしようもない所へ
落とされていこうとしているのを

せめて悪夢が早く終わるよう
祈りながらも

私は感じざるを得なかった



魔理沙が森で触手に・三(仮)

鋭意製作中

あとがき

砂(s73d)です。

本作はコミケ終了後あたりに結構余裕こいて描き始めた記憶がありますが塗りの試行錯誤や鉛筆による線画等、初挑戦な要素が多かった為かなりギリギリまで悪戦苦闘させられました。

話も前巻の時みたいにもた一回ボツにしたりもしました。

余裕かましてゲームとかしてませんよ シテマセン。GTA5楽しみ。

この本の製作中色々と案が浮かんだり頂いたりしたんで

今後は様々なシチュエーションなんかを描いて行きたいですね。

Aftermath楽しいでs

奥付

発行日：20121230

発行：砂亭(s73d)

連絡先：s7ch3d@yahho.co.jp

原作：上海アリス幻楽団 様



砂亭

FOR ADULT ONLY